

2021年11月11日

会 員 各 位

食品品質保持技術研究会
会 長 林 徹

W e b 講 演 会 の ご 案 内

拝啓 向寒の候、皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
さて、首題の件に関しまして下記次第によりライブ配信にて開催する運びとなりました。
つきましては、ご多忙中とは存じますが、万障お繰り合せの上ご参加くださいますようお願いいたします。

整理の都合上、12月10日(金)迄に[弊社ホームページ](#)にてお申込み下さるようお願い申し上げます。

※Web でのご聴講が難しい場合、数席ではございますが、日本食品分析センター 会議室にてご聴講いただくことも可能です。別途、事務局までご連絡ください。

敬具

記

1 日時 2021年12月22日(水) 13時30分～16時50分(ライブ配信)

2 参加費用 講演会 会 員…無料
非会員…2,000円

3 食品品質保持技術研究会講演会 (13:30～16:50)

◎ 会長挨拶 (13:30～13:35)

◎ 講演会 (13:35～16:50)

○自主回収の届出の義務化と近年の食品リコールの傾向分析 (13:35～15:05)

東京海洋大学 学術研究院 食品生産科学部門
大学院食品流通安全管理専攻
教授 松本隆志氏

2018年6月13日に食品衛生法が改正され、HACCPの制度化とともに、2021年6月に自主回収の行政への届け出が義務付けられた。食品リコールは消費者に健康危害等の影響を与えるだけではなく、食品事業者にとって大きな損失になり、その発生を防止することは食品事業者の重要な課題の一つである。食品リコール数はここ数年は800件前後であり、発生原因や食品カテゴリーなどに傾向がみられる。本講演において、食品リコールの傾向を分析し、低減対策を考察する。

○休憩 (15:05～15:20)

○植物工場の最新動向 (15:20～16:50)

千葉大学 大学院園芸学研究所
環境調節工学研究室
教授 後藤英司氏

植物工場は季節に関係なく農作物を栽培することができます。ただし、単に野菜・花きを生産する施設園芸の発展型ではなく、植物の生育環境をゼロから創造し、自然と異なる環境下で植物を育成できるポテンシャルの極めて高い生産システムです。またIT、自動化、無人化が容易で、将来の植物生産のモデルでもあります。現在、世界で精力的に技術開発がなされ、応用範囲は高付加価値農作物、薬用植物、遺伝子組換え植物の生産や宇宙農場まで広がっています。今回は、このような背景のもと、植物工場の現状と未来について講演します。

以上

お問合せは
品保研事務局 織本・鈴木まで

TEL 03-3469-7131 FAX 03-3469-7009